

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502074		
法人名	有限会社)エアステス		
事業所名	Myほ～む 愛華夢		
所在地	札幌市清田区里塚1条2丁目12-11		
自己評価作成日	平成22年8月1日	評価結果市町村受理日	平成22年10月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502074&SCD=370
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほ～むの運営理念である「私たちのほ～むに関わる全ての人々の明るい笑顔と活気ある生活です。」を目指し入居者様だけではなく、関わる御家族様、地域住民の皆様、職員が協力しよりよい支援に結び付けるようチームケアに取り組んでおります。

又、ミーティング時には災害時の避難訓練の為に勉強会、避難訓練、AEDの操作訓練、入居者様の病気について理解を深める為の勉強会を行っております。全職員が外部の研修にも参加し高齢者の権利擁護、虐待、認知症の関わり、センター方式の活用方についての知識、技術の向上に努めております。

誤嚥の予防として毎食前には嚥下体操を行い美味しく、楽しい食事が出来るよう配慮しています。家庭的な雰囲気の中で安心感が有りゆったりとした日常生活をサポートし、季節行事や地域の皆様との温泉旅行等のイベントに参加して頂き楽しみをもち気分転換を図って頂いております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目 北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)4F
訪問調査日	平成22年9月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体組織である当法人は、社会貢献・人間尊重・顧客重視・一流主義を標榜し、ほ～む(事業所)に関わる全ての人々の明るい笑顔と活気あふれる生活を目指す運営に取り組み、地域密着型として新たな展開が求められる以前から利用者が地域の中で暮らし続けることに尽力し現在へと至っている。自宅に変わる新しい住まい方を一般家屋型1ユニット、当事業所定員6名の少人数体制と本来の機能を確実に果たすべく地域との協力関係を構築しながら日夜、管理者と職員が一丸となって運営、ケアサービスに邁進している事業所である。家事等に積極的に参加をしてもらうなどの利用者のできる力に着目した支援は得意分野で力を発揮してもらうと同時に生活の技などを教えてもらう機会に結び付き共に過ごし支え合う関係性を築いている。利用者の困難事例に対しては、言動などの事実を客観的な分析を進め要因を探り出し職員の対応や接遇の気づきとしても発展し適切な個別支援へと活かしている。根拠を明確にした良質なケアマネジメントがチームケアの根幹となり、統一した支援や新たな発見を生み出す遠心力となっている。食材の一部を好まなくなった場合など、「なぜ」を考え結果として医療機関への早期受診に至るなど、多角的視点から推察し見つけ出す努力を行っている。家族や医療機関とも良好な協力関係を維持していることや職員資質の向上を図る取り組みを積極的に推進していることも特徴である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングや日常会話、新人教育の際理念について学び全職員が周知しご家族様、地域住民の皆様を含めたチームケアにいかされように取り組んでいる。	「ほ～むに関わる全ての人の明るい笑顔と活気あふれる生活」を運営理念とし具体的取り組み目標を合わせて表明している。新人教育を重視し、理念についての理解を深める取り組みを進めながら実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として春の大掃除や日帰り温泉バスツアー等の行事にも積極的に参加している。また、入居者様との朝のゴミ出しや畑仕事の際、地域の皆様と挨拶や会話を楽しまれ親しく交流されている。	花や堆肥のお裾わけを受けたり、にらの苗植え等の畑仕事で協力を得るなど地域の方々とのつき合いが深まっている。町内会の行事には可能な限り参加をして地元へ溶け込みながら交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、入居者様の介護度や認知の状況、支援について説明させて頂き理解が深まってきている。皆様からの疑問点や提案に耳を傾け参考にさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し入居者様の健康状態や日常の様子を報告させて頂き助言や要望を伺い今後のサービス向上にむけて参考にさせて頂いている。	会議では介護施設のリスクや防災体制の強化と改善に対する報告や前回評価で課題に挙げた重度化終末期について議題に載せ協議している。毎回、議題に係る内容で学習会を合わせて開催し、作成した資料を基に全体で学びを深めながら具体策などを検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者より日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村が開催する管理者会議に参加し、他事業所の担当者や交流を持ち情報交換し勉強会へ参加するなど協力関係を築いている。	市の担当者からは適切な運営の維持管理についての指導や助言を受けたり、区の担当者とは個別の案件等について連絡を密にしている。地域包括支援センター、地元消防署出張所とは運営推進会議を通じての協力も得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の学習会や日常のケアの中で全職員周知し身体拘束しないケアに取り組んでいる。	仙台センターの「介護現場のための高齢者虐待防止教育システム」を利用して、職員は高齢者虐待防止・身体拘束廃止のアンケートに取り組み、新たな気づきを得ている。利用者の行動にしっかりと関わり、困難な事例でも要因を分析する姿勢を持ち不適切ケアの防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加し、虐待について全職員周知徹底しており見逃しが無いよう防止に努めている。		

Myほ〜む愛華夢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会主催の高齢者の権利擁護を考える集い」等の研修に参加し学ぶ機会を持っており必要があれば活用し支援につなげる事が出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に文書及び口頭で十分に説明させて頂き良く理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見や要望について問いかけ発言しやすいように配慮している。また、入居者様、御家族様にアンケートを記入して頂き意見や要望を正確に知るよう努めている。	家族が訪問した際に利用者の状態について報告し、家族から希望を聞いたり要望を汲み取る事を大切に接している。得られた内容は家族の思いを尊重し理解を深め、関係者間で話し合いながらサービスに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常、意見や提案をしやすいように職員との関係作りに留意している。また、ミーティング時に全職員で活発な意見交換を行い事業所の運営に反映している。	職員はその時々で感じたこと必要なこと等を率直に管理者に伝え、双方が日常的に報告し合うことでより良いプランニングや支援を進めている。職員の公休の希望調整や昇給、また、代表者は定期的に訪問し職員と個別の場等で話をしたりするなど就業環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に事業所を巡回し職員の努力、実績勤務状況を把握している。給与面において昇給を行い意欲を持って働ける環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加できる機会をもうけ認知症の介護技術や知識が向上するようトレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者会虞義に参加し情報交換や外部から講師を招き勉強会を行い管理者、職員が共に参加し質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し困っていることや、不安なこと、要望を仕草や表情、発せられる言葉を受け止め、気持ちに寄り添い安心して信頼して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の来られた時点から真摯に傾聴し困っている状況や気持ちに寄り添い、疑問に対して分かりやすく説明し安心して頂ける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より本人やご家族の心身状態や生活環境、既往等アセスメントし必要な支援が提供出来るように全職員で取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来る事は見守り、感謝の気持ちをお伝え共に暮らす者同士支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに来訪時や受診に同行させて頂く時等ご家族様からお話を伺い、日常の様子をお知らせし互いに理解を深め協力して支援出来る関係が築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	運営推進会議や受診、誕生日等の行事の際に来訪して頂けるようご案内させて頂きいつでも自由に交流出来るよう支援に努めている。	遠方に住む親族からの電話や利用者の誕生会では利用開始以前に本人を支えていた知人の訪問があるなど、以前からの馴染みの関係が継続できるように支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間、レクリエーション時には職員が声掛けし他入居者様と楽しく交流できるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も個人情報の保護に努め良好な関係が継続し必要に応じた相談、支援が出来る体制づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりから本人の希望、意向の把握に努め毎月カンファレンスの際、見当し本人本位のプランを作成し取り組んでいる。	把握が困難な場合等には、焦点情報の24時間生活変化シートを毎日記録して、根拠を求めながら利用者の意向を検討している。職員は利用者との暮らしを共にする中で希望の暮らしを見つけたり直接話し合いながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	定期的に再アセスメントを行い入居者様の今を知り日々の暮らしが本人の希望するものになるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人とのコミュニケーションを大切にし表情や発せられる言葉から全職員が日々の状態を把握し記録、申し送りを徹底している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行っているカンファレンスで話し合い介護計画に反映している。本人やご家族様、看護師、Drと情報を共有し支援につなげている。	生活援助計画書の評価欄に職員がその都度気づきを記録し、カンファレンスで意見討議を行いモニタリングの過不足を補っている。医療者を含めた関係者間の意見を盛り込み状態に即した計画の策定に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が介護計画を確認しその場で気づきを記録出来るようにしている。カンファレンスで毎月見直し職員間で意見交換行い介護計画に反映し実践、記録、結果の評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて本人やご家族様のニーズが叶えられ満足頂けるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民と入居者様は散歩や畑の作業時に馴染みの関係となり日常的に関わり合いを持っている。非難訓練や勉強会で区の消防と関わり良好な関係を持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の意向を大切に2W毎に訪問診療や必要に応じて専門病院に受診出来るように支援している。	協力医療機関以外のかかりつけ医の受診が可能であり、その場合は基本的に家族対応となっている。医療機関へは利用者の詳細な情報を提供し適切な医療に結び付ける支援に尽力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が毎週1回巡回し職員からの相談を受け、訪問診療医や関わる医療機関と連携し入居者様の状態を観察及び処置、職員への指示を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、本人が安心して来れるように面会をし病院関係者と情報を共有し安心して生活出来る環境の整備を行っている。ご家族様と情報交換や相談を行い早期退院に向け連携が取れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ミーティング後の勉強会や運営推進会議にて地域住民やご家族様を交えて話し合いチームで支援出来るように取り組んでいる。	医療連携体制指針で看取りの考え方を示し契約時に家族等へ説明し同意を得るとともに終末期の意向を聞いている。状態変化に応じて関係者間で話し合い合意形成を図っている。ターミナルケアについて内部研修を実施し体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに従い救急車の手配、医療機関やご家族様への連絡等、全職員が落ち着いた対応が出来るように努めている。区の消防の協力の下心肺蘇生の研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。外部の研修として防火実務研修を受講している。運営推進会議や日頃の関わりを通じて協力が得られる体制を築くように努めている。	年2回夜間想定を含めた実践的な避難訓練や防災センターで地震発生装置、スモークマシン体験を利用者参加で行い、また、AEDの使用について消防職員よりレクチャーを受けている。事業所内火気等に関する日常自主検査表を用いてそれらの点検を実施している。	地域住民の参加を得た避難訓練の実施や災害時における協力者の確保と同時に具体的な役割についても協議を持ち推進されることを期待したい。また、火災以外の想定される災害種別に応じた事業所内での避難訓練の実施及び災害備蓄品の確保についても合わせて期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族のような関わりの中にも目上の方であり敬う気持ちで人格を尊重した言葉での会話やプライバシーに配慮した対応を心掛け実践している。	利用者は人生の先輩であり失礼のないように接遇する等の内容や尊厳について新人研修を実施している。職員間での言葉や会話であっても利用者と共に生活をする中で注意すべき点を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いを表ししやすい環境作りに留意し、日頃の動作や、表情等多角的に観察し本人本位の生活が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを第一優先し安心して落ち着いた生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際、本人と一緒に洋服を選び希望によりマニキュアをする等お洒落を楽しんで頂いている。		

Myほ～む愛華夢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく食事が出来るように食材の整理や調理を一緒に行き食器洗いや片付け等出来る方には一緒に行っていたちている。	包丁を用いた調理や肉の味付け、テーブルセッティングなど、利用者一人ひとりの状況を把握したうえで利用者全員が食事における作業を主体的に行えるよう支援している。季節の行事食や祝膳なども取り入れ楽しさを盛り込んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスが良く考えられたメニューとなっており、個別に食事量や水分量を記録している。本人お嚥下機能に合わせて調理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	毎食後、積極的に声掛けを行い口腔ケアを行って頂いている。就寝時に義歯の消毒洗浄もを行い清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。本人の訴えを尊重し短時間での訴えにも対応し排泄の自立にむけた支援を行っている。	職員は日々の支援で利用者のパターンを把握しさりげなく声をかけ、排泄チェックについては夜間帯とアセスメント時に期間を設けて記録に取り組んでいる。自立排泄継続に向け用品使用を最低限としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が豊富な海藻や野菜が多い食事内容で水分を多く摂取して頂く等配慮している。排便チェック表で管理しどうしても無い便が見られない場合は便秘薬の服薬にて調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず1w2～3回入居者様の意志を尊重し入浴支援を行っている。また、本人の心身状態に配慮した見守りや介助でゆっくりと落ち着いた心地よい入浴を行っている。	利用者の状態に応じ、シャワーチェアや可動式の手すりをういて安心して入浴できるように支援し、午後の時間帯で15時まで可能である。利用者の意向やタイミングを工夫した声かけ誘導を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重しながらも安眠に向け日中、適度な生活活動や運動にお誘いスムーズな入眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の病識を全職員が把握に努め医師の処方箋により薬の使用目的や作用、用法について理解して支援している。特に薬の変更後は状態の変化を観察し見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の希望や生活歴や出来る力に着目し、レク活動や役割を持って生活に張り合いや楽しみが有る気分転換の支援を行っている。		

Myほ〜む愛華夢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望や体調、天候を考慮し、毎日の散歩や外出の支援を行っている。	近所の公園や住宅街の庭を愛でながらのゆったりとした散歩や行事的外出では清田区GH交流会への参加や温泉ツアー、お弁当を持参して開拓の村等に出かけている。冬場は商業施設の利用や雪まつり鑑賞に出かけ外気に触れることを大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほ〜むでお小遣いをお預かりしており、希望により買い物に出掛けた際ご自分で支払い出来るような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話したい希望が有る時やご家族様からの電話の支援を行い親しい人との絆が保たれるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節や行事にまつわる装飾をレクの一貫として入居者様と職員の共同作業で行っている。外出時や行事の写真を展示し楽しい思い出の空間を工夫している。洗剤類は誤飲の内容にカーテンで目隠しし安全に配慮している。	全体的に施設的な要素がなく、一般家庭と同様の佇まいで、利用者の快適性に配慮し窓やカーテンの開閉を適宜行い、エアコン、空気清浄機、床暖房を利用して室温や明るさ等の調節を行っている。季節の花を飾ったソファコーナーは利用者が安心して集える空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには数カ所椅子を配置しお好きな場所で思い思いの過ごし方が出来るよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様や本人と相談し居室にはその人らしい者が配置され居心地の良い空間になっている。レク等で作成した作品を飾り満足されている。	使い慣れた馴染みの家具を持ち込んでもらったり大切にしている品々を設え利用者が落ち着ける雰囲気づくりや状態の変化に応じて本人の安らげる環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全職員が個々の力を周知し出来ることを継続し安全で安心感があり自立した生活が出来るように支援している。居室やトイレの場所が解るよう案内板や目印をつける工夫をしている。		